

# 私が出会った水俣病事件

2014. 11. 27

NPO法人

水俣病協働センター  
伊原紀美代

## 1. 自己紹介

- ・ 何故 水俣に来たのか

## 2. 水俣病事件と立ち位置

- ・ 水俣病事件は、時間的にも空間的にも、関連する事項の範囲

極めて広大で事件、立ち位置によって遠くにも見える

- ・ 中立というべきなのか

## 3. 記録としてい犠牲者、死者に復権の道はない。

- ・ 早い時期の発病

- ・ 終つてしまった後の発病

## 4. 水俣病が二世代訴訟、見えにくい被害

- ・ 胎児期、小児期に大脳皮質に損傷を受けたことの深刻さ

## 5. 水俣病事件から私に学んだこと

病 奇

治っても「廃人」

熊本県に厚生省で調査

熊本県水俣市月ノ浦、湯出などの部落に、病名をつけようがない奇病が発生、厚生省も調査にのり出した。症状は、日本脳炎のような高熱が出る。手足がしびれる。中枢神経がおかされ、運動機能障害を起す。だんだん言語障害、視聴力障害も起って「廃人」同様になつてしまふ、というこわいもの。死亡率は非常に高く、約三〇%。熊本大医学部、同県衛生部、地元医師会と国立予防衛生研究所、公衆衛生院が共同調査を行つており、感染には土地の海からとれる魚介類が一役買つているという見方が強い。

月一日、同市新日本製薬工場付風内院から水俣保健所に「日本脳炎の疑いのある患者」として報告された。同保健所で調べたところ、同じような病気は二十八年ごろから同市近郊の教部落にあることがわかったが、二十八年十二月から昨年十一月までに五十四人が発病、十七人が死んでいる。完全に治つたのは三人だけで、その他は後遺症が残つて「廃人」同様だといふ。

病人は漁師が圧倒的で、発生地域は水俣市の恋路島(こきしま)内海灣に面した海岸地方が大部分、他所でかかったものも、この湾に魚をとりに来る者がほとんどだ。ネコもかかり、けいれんを起したり、海へ飛込んで死んでいく。茂道部落では、ここ数年間に約百匹が死んでネコが全滅したといふ。さらに豚や犬にも似た症状で死んだのがあるといふ。またこの湾にはボラ、エビ、タコ、カニなどが多く、これらを、たくさん食べる人ほど、かかりやすい。関係当局の調査では、有毒物が海水に溶けてこんでいて、これに汚染された魚介類を食べるためと推定している。また汚染体は細菌やウイルスではなく、重金属による中毒説が強い。さらに水俣市の新日本製薬水俣工場から出る化学製品の廃液の中に有機金属が含まれているか、どうかも調査している。

昨年四月ごろから水俣市郊外に手足が利かなくなつたり、言語障害を起す病人が多く、同年五

朝日新聞東京本社版  
昭和32年8月13日

# 水俣湾(熊本)の漁獲禁止

## 奇病 魚に含む金属の中毒

【熊本発】熊本県水俣市に四年前から、手足がしびれ、狂乱状態になつて死ぬ奇病が発生、被害者五十二人のうち十七人が死に、現在九人が熊本大学病院に入院、二十六人が自宅療養しているが、これは水俣湾で獲れる魚が原因となつたので、熊本県は早く尚ほで漁獲を自的とする漁獲を禁止する。

同県、厚生省、昭大医学部、公衆衛生院の共同調査によつて、奇病の原因は同湾で獲れる魚に含まれているマンガン、セレン、タリウムなどの重金属による中毒であることと原因が確認された。また、この

て漁獲そのものを禁止することはない。この項を適用することになつた。出来ないので、畜産衛生法第四條の「有害物を販売すれば処罰される」との罰則は、水俣湾産物の罰へ

ではすでに二十八年とるから同市近郊の敷設地にあることが分つた。治つても後遺症で病人同様に立る。病人は魚師が圧倒的に多く、発生地域は水俣市の悉路島(こきしま)内海湾に面した海岸地方が大部分で、他所でかかった者もこの湾に魚をとりに来る者がほとんどという。公衆衛生院学入正博士の語「この病気が、水俣湾の魚や貝を食べたために起ることは確実であり、その原因はあるいはマンガン、

セレンその他の重金属の中毒であると考えられている。これは患者の臨床症状や動物実験でよく認められている。ただ、この

マンガンやセレンがどこからくるかという点で、まだ一致した結論は得られていない。

# 水俣病（熊本県）で漁民騒ぐ

## 警官72人が負傷

### 新日窒工場に押しかけ

【水俣】無差別に「水俣病」で被害を受けている熊本県八代、天草など不知火海沿岸の漁民約千五百人（水俣病推定）は、一日両から二十数度の漁船をつらねて雨の中を新日窒工場のある水俣湾内閣に上陸、待つていた地元漁民約三百人と合流、同工場の排水中止をせよとプラカードのぼりを押し立てて水俣市内をデモ行進し、同日正午ごろ水俣入りした際、水俣警察署前に陣取りしたため水俣駅前で漁民大会を開き、午後は

新日窒工場に押しかけ交渉を申し入れた。漁民たちは代表者と工場側との交渉が行なわれるのを待っていたが、午後二時半ごろ突然漁民のうち激怒をおびた数百人が正門のサシを飛び越えて工場内広場になだれ込んだ。漁民はこん棒や竹ざりを振りまわして保安隊所をはじめ厚生課事務室、南産室、研究室などに次々と投石、電線敷きなどをやるもの、こん棒で殴るなどの暴行をおこな

暴の限りを尽くした。暴行の要領がなかったため水俣警察に警戒していた約三百人の警官隊が、現場に到着したのは午後二時すぎだった。漁民を制止しようとする警官隊にも七十二人の負傷者があり、工場側にも負傷者が出た。熊本県漁業協会の話、会社側にはまだ漁民の要求に対する回答を確めなかった。この間には不審事は本意ではなかった。しかし代表の話し合いにさえ感じ

とうとしない会社側の態度に、この事柄の責任がある。西田新日窒工場長の話、計画的な遊撃でこんなことは法外で断じて許せない。当局の手で責任を波及してはならぬ。高橋熊本県警備部長の話、漁民代表が大会決議を持ってきて、交渉することだったので、工場側からも出陣の要請がなく、ついに間にあわなかったわけだ。【水俣病とは】昭和二十八年十二月、熊本県水俣市の漁業部落で発

生じた、六年経ってもまだはっきりした原因もわからず、従って決定的な治療法もない。水俣市に工場を持つ新日本窒素の工場排水が原因ではないかとする一部学者の説に対して、日本化学工業協会の一部では、旧日本海軍が水俣湾内に捨てた有機銀の影響ではないかと主張、対立している。現在までに水俣市に隣接の同県市北郡津奈木村などで七十六人が確病、うち二十九人が死んだ。水俣湾でとれた魚を食べると手足がしびれ、やがて言語障害を起し目も耳までも機能が失くなる。ネコなども発病すると立ちまわらなくなり、狂い狂いして海に飛び込んで死んでしまふという世界でも類のない奇病といわれる。

## 「工場廃水とは 考えられない」

水俣病で済浦教授報告

熊本県水俣湾の魚を食べると起る奇病「水俣病」については、新日本窒素水俣工場から出る廃水中の水銀が原因とされていたが、この夏から現地調査をしてきた東京工大済浦雷作教授は「原因は工場廃水とは考えられない」との結論を出し、十二日通産省にその研究報

告を提出した。

こんどの済浦教授の結論は「水俣湾の水質は他の海湾と比べて特に汚濁してはおらず海水中の水銀の濃度も高くない。また水俣以外の地区でも水銀を多く体内にふくんでいる魚があり、この魚を食べても奇病は起らないのだから、水俣病が水銀をふくむ工場廃水によって起るといふ結論は早計である。浜名湖の海アサリのような、本質がまたつきとめられていない有毒藻によつて発症するのではないか」というもの。

# 原因は「水銀の有機物」

## 「水俣病」食品衛生調査会答申

熊本県の不知火漁港にある水俣市を中心起っている「水俣病」の原因については東京工大清浦雷作教授が十一日通産省に研究報告を出したが、こんどは厚生省の諮問をうけていた食品衛生調査会が十二日東京日比谷の松本塔で常任委員会を開いた結果、水俣食中毒特別部会の結論を厚生大臣に答申することを書きめた。これによると水俣病は水俣湾およびその周辺に住んでいる魚介類を多量に食へることから起るもので、おもに中枢神経系統がおかされる中毒性疾患で、そのおもな原因はある種の有機水銀化合物となっている。

厚生省は去る十月二日の調査会に諮問、同調査会では元熊本大学学長齋藤健之氏を部長とする特別部会にその調査を行なわせていた。同調査会ではこの結論を出した理由としてつぎの八つをあげている。

①この病気のおもな症状は身体の自由がきかなくなり、視界が狭くなり感覚が鈍るなどで、これは有機水銀化合物の中毒症状と酷似している。②この病気で死んだ人の死体を解剖してみると小脳と視中樞をおかされている。これは有機水銀化合物中毒の解剖例で認められる。③この病にかかった者の尿の

れる。④有機水銀化合物、たとえばジメチル水銀、またはエチルリン酸水銀を動物に与えると水俣病と同じ症状を起す。

こうして一応の結論が出たわけだが、この有機水銀化合物がなぜその地域にできるのか、それがどのように魚介に入りこむのかの問題が残る。特に同市にある新日本窒素が使っているのは無機水銀化合物であるとされているので、この工場から出た無機水銀化合物が原因だとすればなぜ無機が有機に変るのか、問題が残されているという。

なお、この日の調査会では通産省に十一日提出された東京工大清浦雷作教授の「水俣病の原因は工場廃水とは考えられない」との調査報告についても検討したが、同報告は海水調査を主としたものなので、その結論は認められないとの意見が強かったという。

中から水銀が普通の人と比べて多量に排出される。⑤死体解剖の化学分析結果によると脳、肝臓、じん臓などにはほかの病気で死んだ者と比べ、たくさん水銀が検出される。⑥水俣湾の海底にたまっている泥の中に、ほかの泥と比べてきわめて多量の水銀が検出される。⑦この地区からとったヒバリガイモドキ(一種のクロ貝)の体内にも多量の水銀が検出された。このヒバリガイモドキをネコに食わせると水俣病と同じ症状を起す。⑧実験の結果死んだネコと水俣病にかかったネコの脳幹、ことに脳からほかのネコよりも多量の水銀が検出さ